

文責者 全塾協議会塾生代表秘書 環境情報学部1年 石井柊

監督者 全塾協議会第3代塾生代表 商学部4年 前田稔

---

## 調査の趣旨

湘南藤沢自治会の設立について、SFC各学生団体代表者へその賛否を問い、同時に、各団体が抱える問題や団体の現状を全塾協議会として把握しておくことを目的とした。また、自治会の設立によってそれらの問題を解決できるかどうか、今後検討するための判断材料を収集することも目的としている。

---

## 調査の概要

SFCにて活動する学生団体の代表者を対象に、2019年11月24日(日)~11月30日(土)の期間、オンライン上のヒアリングシートを配布、回答を収集した。

オフラインでも、11月26日(火)12:40~14:30・12月2日(月)9:15~16:50、ヒアリング会を行い、団体代表者や、活動に興味を持った塾生たちと対話し、ヒアリングシートの回答を促した。いずれもSFCにて実施した。

また、11月27日(水)、SFC学部事務室学生生活担当協力のもと各学生団体代表者へ、メールによるヒアリングシートの一斉送信を実施した。ヒアリングシートの内容については、以下の通りである。

### 【必須項目】

・団体名 ・代表者氏名 ・代表者学部 ・代表者学年 ・所属している学生数 ・普段の主な活動場所 ・メンバー1人あたりの年間支出額（部費、用具費、新歓費、場所代等）（おおよそ） ・湘南藤沢自治会復活についての賛否

### 【任意回答項目】

・代表者または団体の連絡用メールアドレス ・団体の運営等で困っていること、団体にとって不足していると感じる点 ・貴団体の理想像

<ヒアリングシートURL>

<https://forms.gle/vMznqnNEkXjkQttb9>

※回答はすでに締め切っている

---

## 調査結果

調査を行なった結果、合計29の回答を得られた。このうちSFC所属の独立団体代表者による回答は23で、全団体の41%(小数点以下切捨て)であった。また、独立団体以外にも、七夕祭実行委

員会、クラブハウス棟執行委員会からも回答を得た。これらを除く回答は同一団体による重複回答と、日吉キャンパス所属団体による回答である。

回答の中でも特に、自治会の設立への賛否には合計**96.6%の賛同**（賛成、どちらかといえば賛成の合計）を得た。

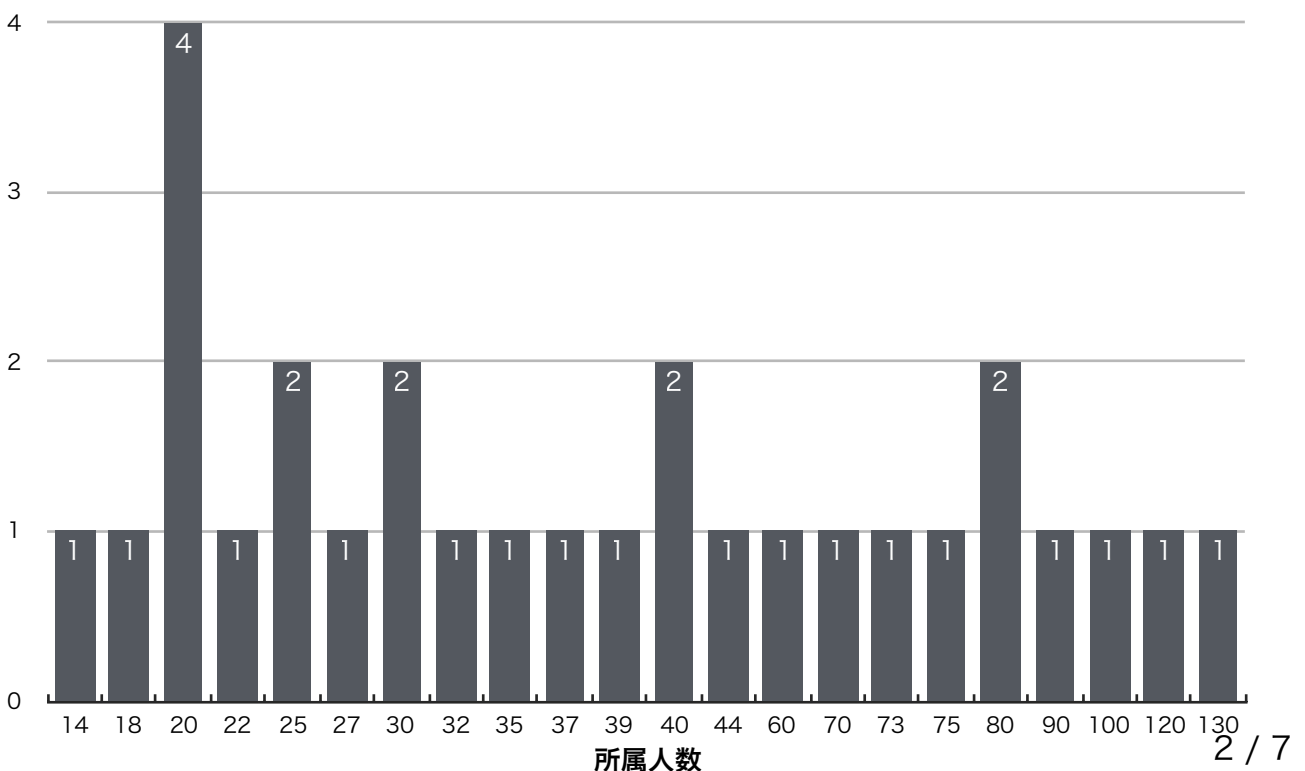
以下、調査項目別の回答内容である。尚、回答者の個人情報に関わる部分の掲載は控えることとする。

## ○団体名

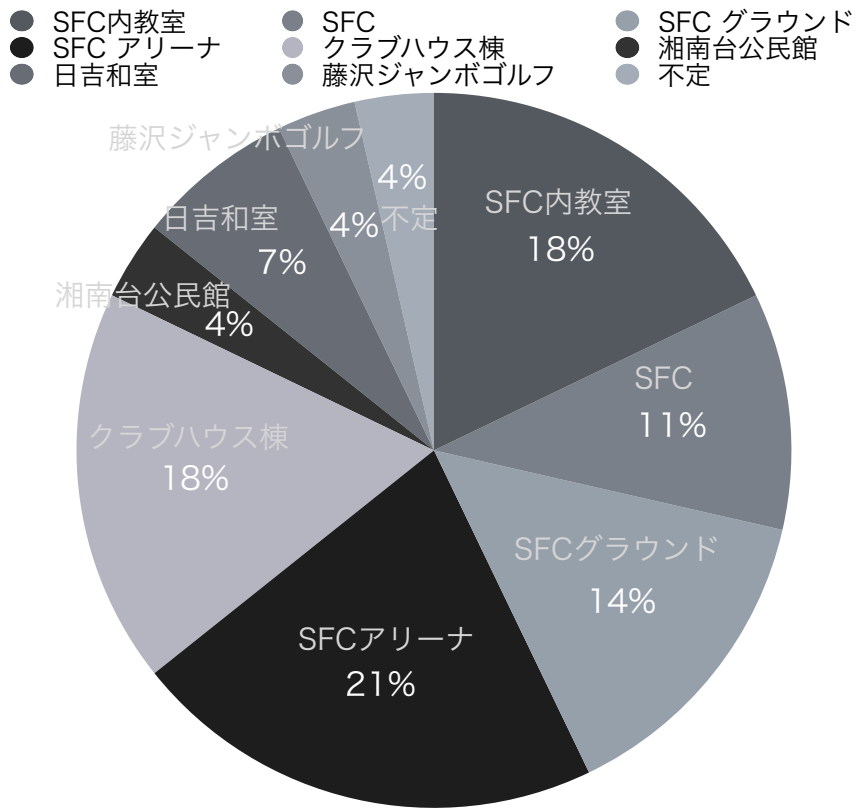
ACOGGYZ	ASHIZARU (2)	Association for International Students
Dance Unit W +I&S	FC.Pierrot	KART
OUTSIDERS	Steelers ゴルフクラブ	Top Dogs
UNREAL	Ultimate Team HUSKIES	ウィンドオーケストラDolce
クラブハウス棟執行委員会	ゲームサークルDICE	ゴブリンスキークラブ
バスケットボールサークルabout	ルフテニスクラブ	七夕祭実行委員会
劇団EnTRoPy	学生団体 Campus village	慶應かるた会 (2)
慶應食の会	星空鑑賞サークル	籠球倶楽部(kagers)
獏之會 (2)	辯論部藤沢会	

※カッコ内は重複回答数

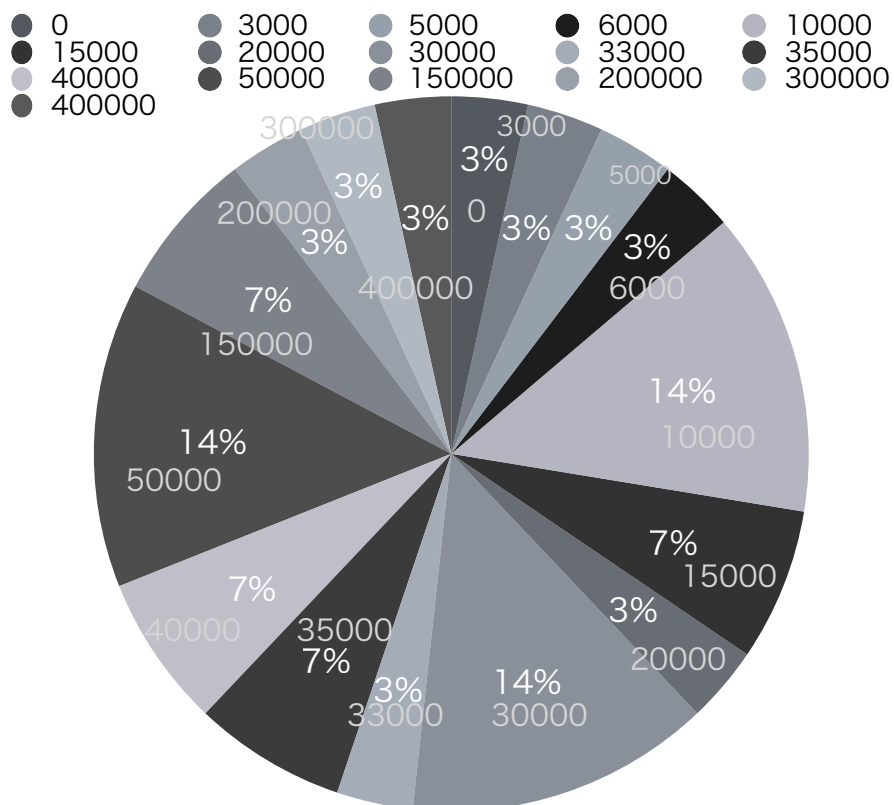
## ○所属している学生数



### ○普段の主な活動場所

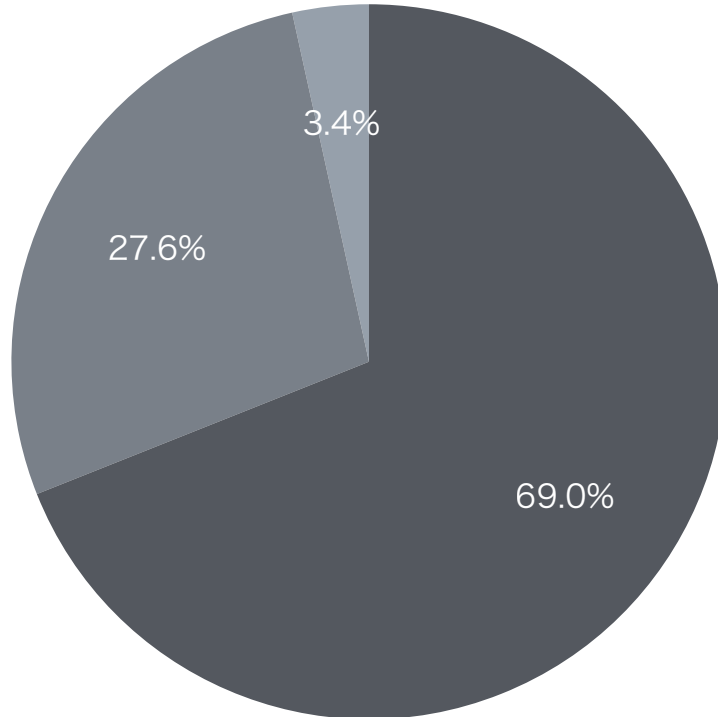


### ○メンバー1人あたりの年間支出額（部費、用具費、新歓費、場所代等）（おおよそ）



## ○湘南自治会復活についてどう思われますか？

● 賛成 ● どちらかといえば賛成 ● どちらかといえば反対 ● 反対



## ○団体の運営等で困っていること・団体にとって不足していると感じる点(22件の回答)

- ・部員集め、部員確保
- ・土曜日にグラウンドを11:00までしか使えない件、空きグラウンドにて自主練ができない件、女子更衣室のシャワールームが少ない点
- ・慶應内のテニスサークルは、塾内連盟という団体に25前後の公認団体が所属しているのですが、1サークルあたり、年間40万ほどの経費がかかっており、これをサークル員だけで負担しているためかなり重くなっているのが、問題となっております。
- ・特になし
- ・合宿等のイベントで徴収する金額がどうしてもかかってしまうことにより、参加する部員が少なくなってしまう点。
- ・まともな人間が不足していて、会計ぐらいしか正しく処理できていない

- ・お金
- ・資金不足
- ・メンバーが少なく、どうしても部費がかさんでしまう。
- ・人数が年々減少してきている。そのため一人当たりの負担額が多くなってきており、金銭面で演奏会に出ることを諦めてしまう部員がいる。
- ・執行代・幹部の負担が大きい。（仕事面で）
- ・現在のところ部費収入だけで十分運営ができていますので、財政面での問題はありません。
- ・ボードゲーム保管場所が足りないので貸し倉庫が欲しいが部費としては2000円程度しか集めていないので借りる余裕はない
- ・年4回ある合宿に参加しない場合は2000円のみでの支出
- ・やはり学校からの援助なしでの運営は厳しく感じます。七夕祭は、地域密着という目標を掲げていますが遠藤地区も高齢化などの問題を抱えており年々地域の渉外金は減りつつある。
- ・オフシーズンの活動が不足している
- ・インタラクティブな場が不足している
- ・試合時の参加費や交通費、活動に必要な備品を買う費用の不足、部員不足
- ・現段階では特になし。
- ・質問内容とは異なりますが、湘南藤沢自治会設立について。

メッセージでいただいたように「湘南”藤沢”自治会」を「設立」するのか、それともこのフォームに書いているように「湘南自治会」を「復活」するのか、塾生代表と秘書の方々にそれぞれの方向性や背景を共有できているのか非常に疑問です。また塾生代表が1年の任期ということや、実際の権限や影響力どの程度あるのかということが不明確であることから、任期中に自治会を設立する、ということは不可能であると考えます。

- ・運営費の不足、利用者の減少、広報
- ・SFC内他サークルとの交流が全くない。新入部員の数不足している。
- ・資金面のやりくり
- ・財力不足
- ・グラウンドを利用できる時間帯がかなり制限されていること

## ○団体の理想像(17件の回答)

- ・多くの部員が欲しい
- ・金銭面でのサポートをもらいつつ、アルティメットという競技により専念できる環境を作り上げること。
- ・団員全員が学生生活において有意義な時間を過ごせるような団体
- ・お金に困ることなく、所属している部員みんなが楽しく普段の活動だけでなく合宿等のイベントに楽しく参加できるような環境を築き上げたい。
- ・ちゃんとした公式サークル
- ・1年生の金銭的負担の減少
- ・塾内戦に出場できるレベルになれるような練習ができる団体

- ・ SFC唯一の競技系フットサルサークルとして、SFC生に熱くなれる場所を提供する。部活の延長のような懐かしい青春を感じる場所にする。
  - ・ 部員が吹奏楽をの演奏を楽しみながら行う。
  - ・ 設立6年目と若い団体なので、我々の卒業後も長く続いていくことが理想です。
- 
- ・ 七夕祭を運営することに各々が誇りを持ち、実行委員自身も楽しみながら活動することができること。
  - ・ 現役が単純にスキー、スノボを楽しめる団体
  - ・ 個性あるメンバー同士が楽しい時間を過ごせる居場所。塾生代表秘書応援しています。
  - ・ 理念として掲げている、「応援される団体」であり続けられること。
  - ・ より多くの新入生に快適な学生生活を送ってもらうためのサポートをする団体
  - ・ 各会員が積極的に自己研鑽に取り組み、己の意見を躊躇せず表す団体。
  - ・ 学外でも様々な活動を展開する団体

---

## 分析

自治会設立の動きを作るために、今回の調査ではアピールポイントの多くを資金面の援助としており、実際に各団体が抱える問題も資金面としているところが多かった。しかし、各団体が抱えている問題はこれに止まらない。

現状の調査結果から、各団体から挙げられた問題を分析することで考えられる自治会のあるべき姿は、①資金面で各団体をサポートすることができる組織、②会計等の、団体運営に係る総合的なサポートをすることができる組織、③SFC新歓サークルへの全塾協議会からの支援を行い、新歓等の部員増加のサポートをより円滑にできるようにする組織となること。

- ① 今回の調査において塾生に対して全面的に推している部分であった。現時点で回答をいただいている団体のうち、13の団体が任意回答項目にてこれに賛同を寄せている。ヒアリング内容から推測できる資金不足の構造は、a.所属メンバーが少ない為に資金が十分集まっていない、b.メンバー数に不足は生じていないが、団体の活動規模が大きい為、メンバー一人当たりの支出額が大きい、の2種類である。bに関しては特に、定期公演等を行う団体から多く寄せられた。
- ② 団体のメンバーにそれぞれ割り振られている役割が団体内で機能していないという意見があった。実際にオフラインのヒアリング会を行った際にも、代表者が有名無実化していたり、自分の団体の代表者が誰なのかがわからないという人がいたり、サークルとしての実態が薄れている点も見受けられた。団体メンバーや義塾に対する活動内容の透明性を担保することや、より円滑

な団体運営を行い、団体の存続を判断してもらうためにも、自治会として支援することは非常に重要である。

③ 調査結果を受けて、部員減少を嘆く団体代表が思いの外多かったという印象を受けた。今後はSFCの学生が興味のある団体に出会いやすく、且つ各団体の活動内容を知ることができるように、SFC新歓実行委員会へ自治会として支援することも視野に入れる必要がある。

#### <考察>

以下に、自治会設立に向けて、今後どのような議論を展開して行くべきかをまとめる。

今回の調査において、自治会の設立には合計96.6%の賛同（賛成、どちらかといえば賛成の合計）を得た。反対意見は一件のみ存在したが、これは塾生代表、塾生代表秘書の任期中の自治会設立は現実的に実現不可能なのではないという考えによる反対票であった。その為、自治会設立については今後前向きに検討して行くことができそうだ。今回の調査に協力頂いた団体は全団体の中でも協力的である為、このコネクションは大事にして行くべきであると思われる。

しかし多くのSFCの塾生が自治会設立には賛成の意思を表明しているが、彼らが自治会にどの程度の何を求めているかは大まかにしか把握出来ていない。自治会が、自治会に加盟している団体に対してどの程度介入するのか、どのようにして各団体との双方向性を保つのか、制度面はどのように構築して行くのか等は、今後慎重に議論して行く必要があるだろう。

また、任意回答項目でも指摘があった、自治会”設立”や”復活”といった細かい文言についても、一度議論しておく必要があると感じた。私は、自治会”復活”とすれば以前存在した自治会の制度を踏襲した組織の設立、自治会”設立”とすれば、新たな制度を用いた組織の設立、というように考える。このような議論を行い、全塾協議会内部で共通認識を持っておくことで、我々が円滑にタスクや議論を遂行できるようになるほか、塾生の疑心や不安の抑制に繋がると考える。

最後に、上記文章にて記載した分析、考察の部分は全て私の主観によるものである為、調査結果を受けた第三者視点の意見を伺ったうえで、結果が分析されることが望ましいと思われる。